



2019年(令和元年)度 竜光保育園 第647号

【園長の言葉】

新緑の季節の中、子どもたちの夢と希望をのせ五月の夜空をおよぐいのぼりが、新時代「令和」の幕開けを祝っているようです。また、先日の「親子遠足」には、多くの皆様のご参加を頂き有難うございました。風はやや“ひんやり”としていたものの、10連休のスタートにふさわしい好天に恵まれ、子どもたちにも笑顔がはじけていたようです。

さて、時々「保育所は子どもと遊んでお給料もらえていいよね」とか「子どもが帰ったらもうおしまいよね」などと言う残念な声を聞く事があります。保育現場に携わっているものとしては、何ともやるせない気持ちにもなります。しかし保育所は、日常において子どもたちをただ自由に預かったり、遊ばせたりしているわけでは決してありません。

本来保育所は、その園の理念や基本方針などその保育園の目指すべき全体像を表した【保育課程】に基づきそれを踏まえ、次に具体的に各々の子どもの発達や状況を考慮した、乳幼児期にふさわしい保育が展開されるよう長期的、短期的な【指導計画】が作成された上で年間の保育が実践されねばなりません。即ち、子どもたちの育ちに目標をもって、見通しを立てて日々保育が進めているのです。そしてその計画は単年で終わりではなく、必ず「継続性」を持って進められねばなりません。特に、以前にも述べさせて頂いた(※30年度5月の園だより参照)、幼児保育・教育から小学校への円滑な接続を目指した「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、「遊び」を通して育まれていくケースも多く、幾多の保育園の指導計画にも盛り込まれています。例えば、「お店やさんごっこ」の中で、それぞれ子どもたちの役割分担を明確にすることにより、「自立心」や「協同性」「思考力の芽生え」を育てていくなどです。

遊びを通して、日々子どもたちの様々な力を学び成長しています。そんな力が小学校以降のあらゆるシーンで必ず生かされていくはずで。これからも私たち保育者は、子どもたちをサポートしつつ、さらなる「遊びの質」を高めていき、そこで学んだことが、次のステージに生かされていくような「つながりのある保育の確立」を目指していく所存です。

～みんなが元気になる言葉～No.1

“あのときのあの苦しみも あのときのあの悲しみも みんな肥料になったんだなあじぶんが自分になるための”

～相田みつを～

…人生においての苦しみや悲しみは、実は自身のこころを耕し、その先にあるあらたな自己のめざめやまことの学びに出会うための大切な肥料とは言えないでしょうか。苦しみや悲しみを否定せずに、むしろ積極的に受容する事によりはじめて出遇えていく世界もきっとあると私は思います。



5月の行事予定

- 5月 7日(火)体操教室
- 14日(火)健康診断
- 15日(水)身体測定
- 16日(木)避難訓練
- 18日(土)英語教室(桜組)
- 20日(月) } 個人懇談会
- 25日(土)
- 21日(火)体操教室
- 22日(水)誕生会
- 23日(木)4、5歳児歯科検診
- 31日(金) } お泊り保育(桜組)
- 6月 1日(土)

☆6月15日(土)保育参観・試食会を予定しています。

4月のお誕生会



【令和】の  
鯉のぼり



到津の森公園での遠足



おすすめ絵本のコーナー



『おしっこちょっぴりもれたろう』

作・絵:ヨシタケシンスケ 出版社:PHP 研究所  
おしっこの前後、「ちょっぴり」粗相をしてしまう男の子が主人公。子どもだけでなく大人にも「これある、ある」が満載です。最後におじいちゃんがでてきて…。2018年MOE絵本屋さん大賞第1位に輝いた、人気作家ヨシタケシンスケさんのユーモアあふれる作品です。

『くものがっこう』

作:みらい なな 絵:いけずみ ひろこ 出版社:童話屋  
お空の上のくもの子どもたち4人?が、「くもの学校」に入学して、卒業するために多くの課題(様々な形になれること)をクリアしていくというお話です。読み終えた後、子どもたちが外に出て色々なくもをさがしそうですね。ところで小学1年の国語の教科書で「くじらぐも」ってありませんでしたか?なぜかときどき思い出すなあ。

花まつり(おしゃか様のお誕生日)

